# 資料２－１　文献・データ調査

## １．上位・関連計画における位置づけ、景観に関する考え方

### （１）目指す将来像

・第６次行田市総合振興計画において「**いにしえと未来を紡ぐ　誇れるまち ぎょうだ**」を将来都市像とし、先人から受け継いだまちの資産を再認識しながらも、従来の考え方や手法にとらわれることなく、新たな時代の流れを積極的に捉えたまちづくりを展開し、市民が誇れるまちを目指すとしている。

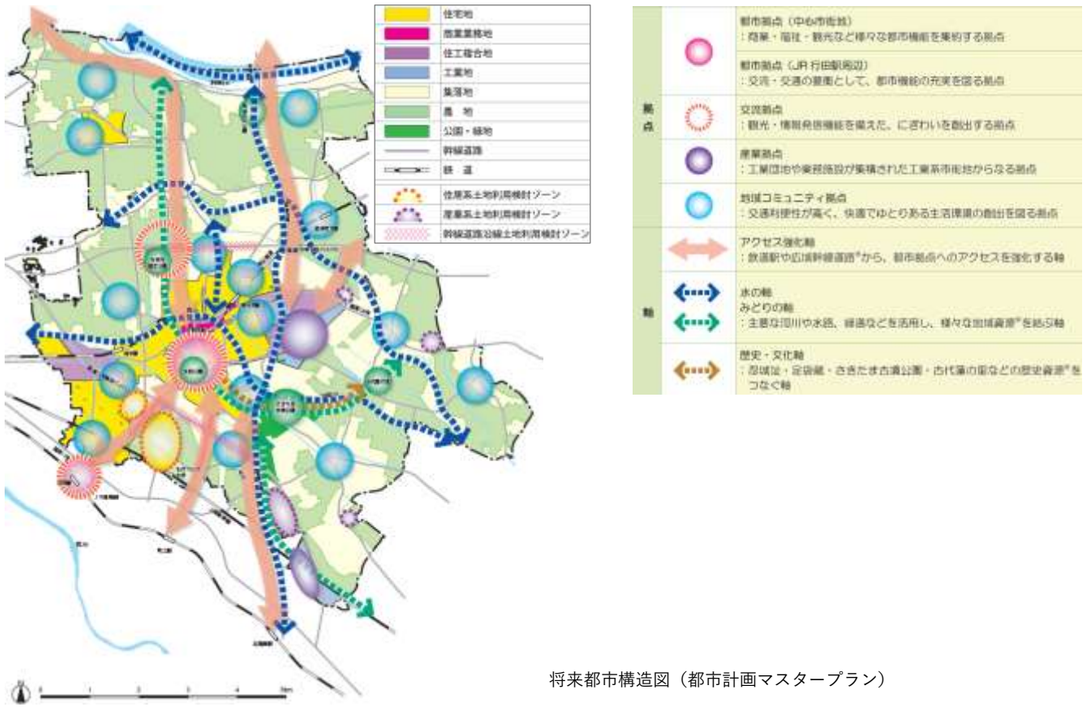
・また、都市計画マスタープランにおいても、古代から現代へ人の営みを綿々とつなぎ、未来をきりひらくことが掲げられており、「**環境負荷の少ない集約・連携型の都市づくり**」を目指すとしている。

### （２）重点的に施策を講じるエリア

・都市計画マスタープラン（平成 25 年）では、「**都市拠点**」、「**交流拠点**」、「**水とみどりの拠点**」、「**産業拠点**」、「**地域コミュニティ拠点**」を設定している。

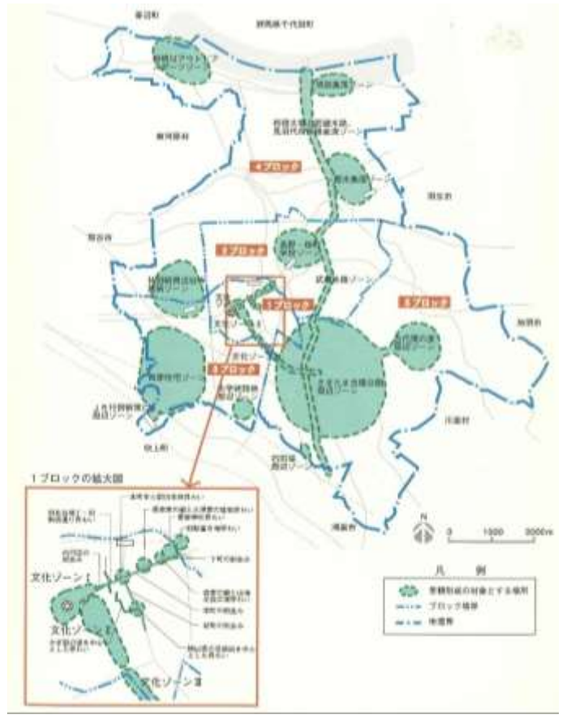
・行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画（平成 26 年）においては、**核となる主な地域資源**を挙げ、地域資源を核としたまちづくりの考え方を示している。また、実現のモデル地区として**秩父鉄道行田市駅周辺の歴史的建築物が集積するエリア**を選定し、詳細なビジョン、方針、具体的施策を策定している。

・景観形成基本計画（平成 11 年）では、**景観構造と景観資源の調査、当時の上位関連計画、意識調査で市民が意識を向ける場所を重ね合わせ**、景観形成の対象とする場所を選定するとともに、ブロック別の個別計画を示している。




将来都市構造図（都市計画マスタープラン）

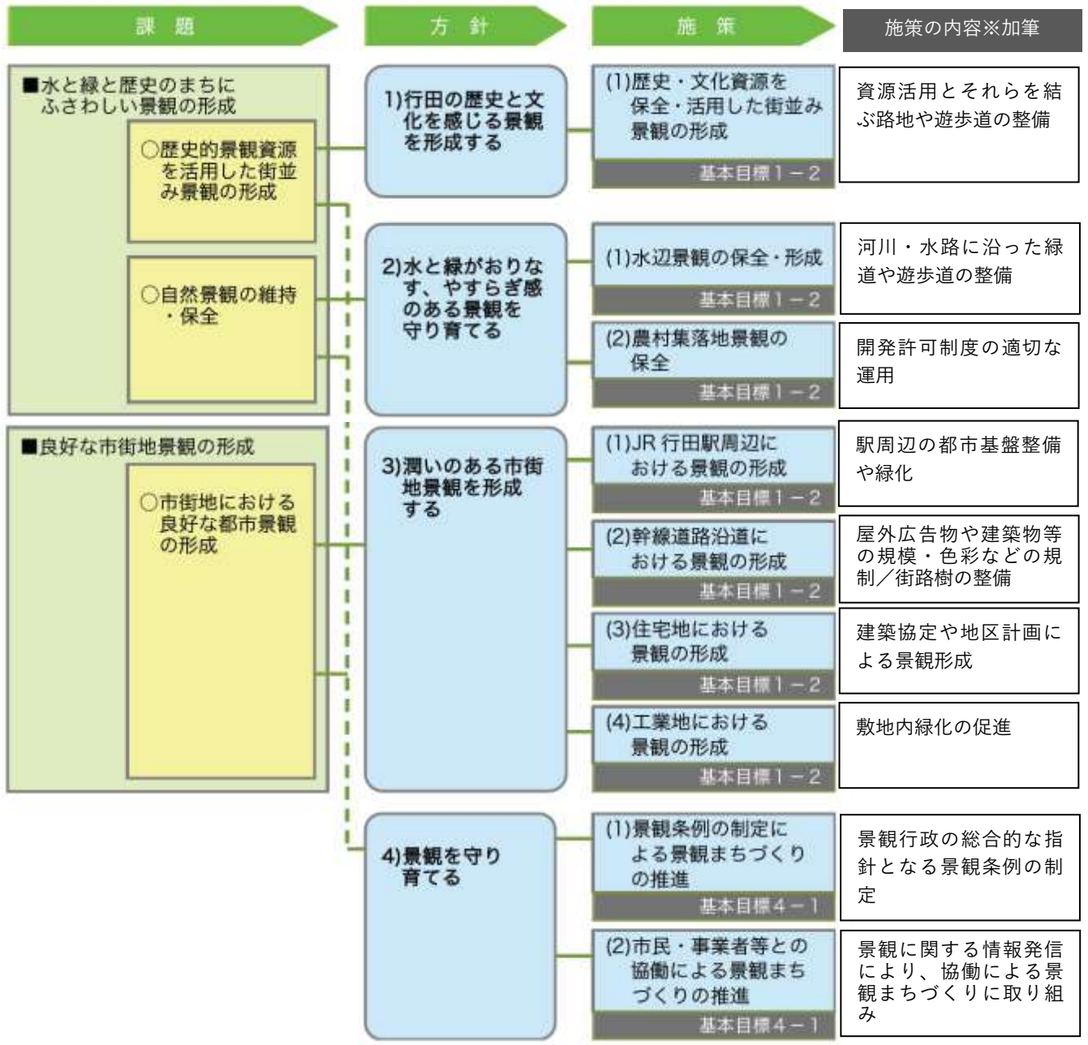
地域資源を核としたまちづくりの考え方
（行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画）




景観形成の対象とする場所の全体配置（景観形成基本計画）

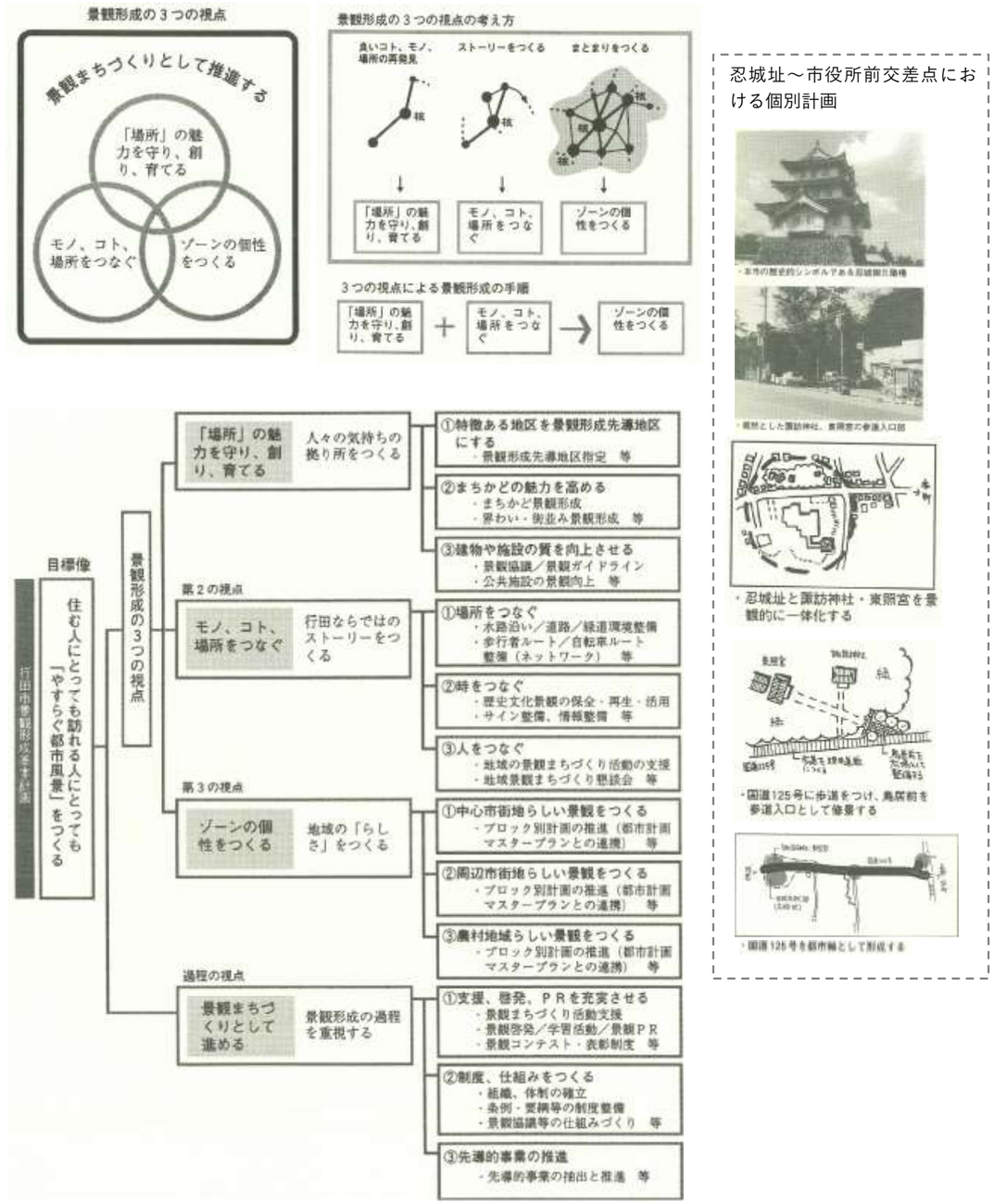
### （3）景観に関する考え方

・都市計画マスタープラン（平成 25 年）では、住みたい、訪れたいと思えるまちづくりを進めるためには、地域固有の歴史や文化を映し出す、愛着の感じられる景観が大きな役割を果たすとし、全体構想（分野別構想）の中で**「景観に関する方針」**を掲げている。




景観に関する体系図（都市計画マスタープラン）※一部加筆

・景観形成基本計画（平成 11 年）では、**景観形成の３つの視点（第１の視点：「場所」の魅力を守り、創り、育てる。第２の視点：モノ、コト、場所をつなぐ。第３の視点： ゾーンの個性をつくる。）**が掲げられており、これらは、行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画にも引き継がれるなど、行田市の景観づくり、まちづくりにおいて重要な視点となっている。




景観形成の視点、考え方、施策（景観形成基本計画）

## 2．これまで実施した関連施策

### （1）市全体における取組み

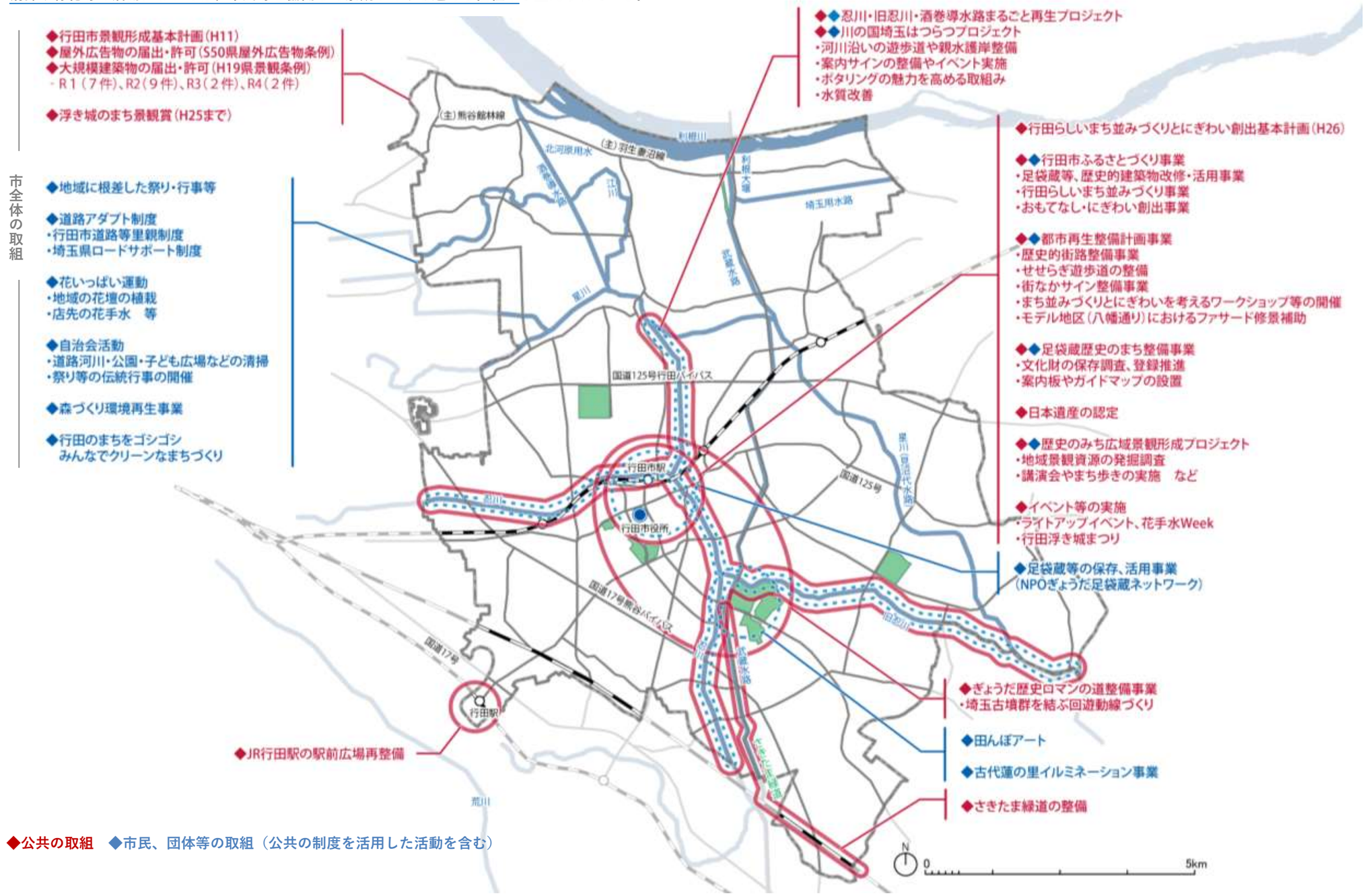
・行田市景観形成基本計画では、**景観形成の大きな考え方**を掲げ、行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画においては、**中心市街地の空間ビジョン**を描いている。

・埼玉県景観条例の運用により、**大規模な建築物や屋外広告物の景観誘導**に取り組んでいる。

・**清掃や緑化等の活動においては、市民等と協働して景観づくりを進める仕組み**が整えられている。

### （2）エリアにおける取組み

・中心市街地や河川・用水沿川、埼玉古墳群周辺において点的及び線的な景観整備が進められており、景観整備と並行して市民団体等との協働によるソフトの取組も進められている。




◆公共の取組　◆市民、団体等の取組（公共の制度を活用した活動を含む）

## 2．景観構造別の特性

### （1）自然・田園景観

#### 1）景観の基礎となる地形や植生

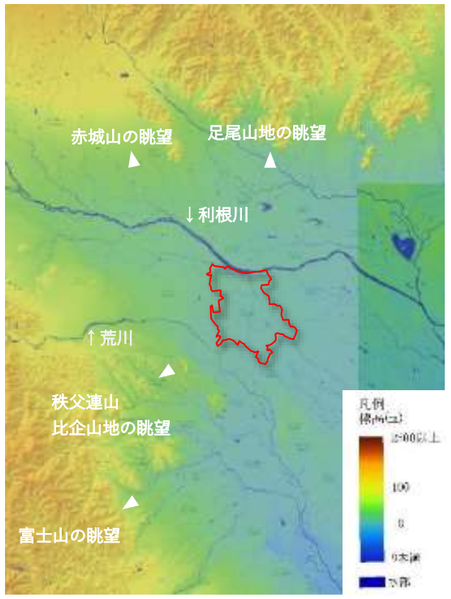
**■地形・水系**

・本市は埼玉県東部に広がる埼玉平野北部に位置し、二大河川（利根川と荒川）により形成された標高 15～22ｍ前後の**沖積低地**である。

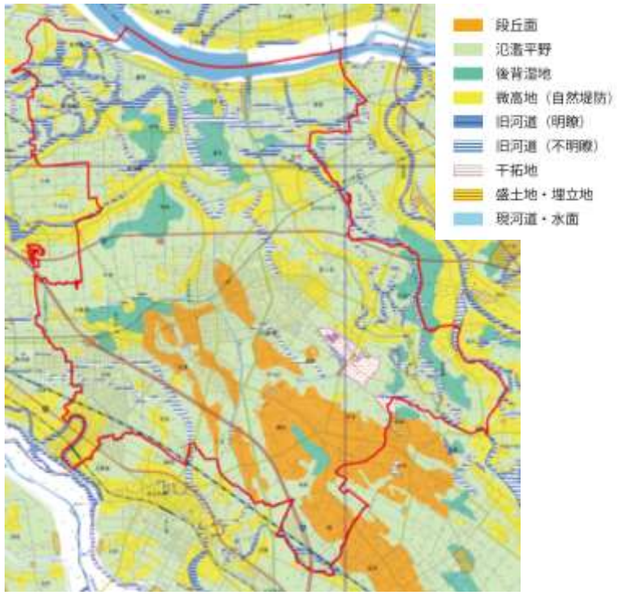
・景観上は低地が連なるように見えるが、市域全体で発達した中小河川周辺の自然堤防や後背湿地、埋没台地により**複雑な微地形**が形成されている。

・低地上に位置することから、遠方には富士山や赤城山、秩父連山、足尾山地などの**山々を望む眺望景観**が特徴的である。

埼玉県の地質図　出典：行田市史普及版 行田の歴史



標高図（国土地理院）



治水地形分類図（国土地理院）

アイストップの赤城山（市役所周辺）

アイストップの富士山（持田）

**■植生・生物多様性**

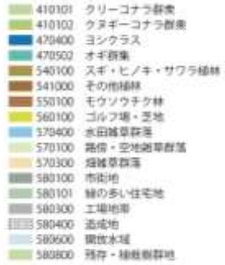
・市街地を除く低地の植生は概ね**水田雑草群落、畑雑草群落**によって構成されている。

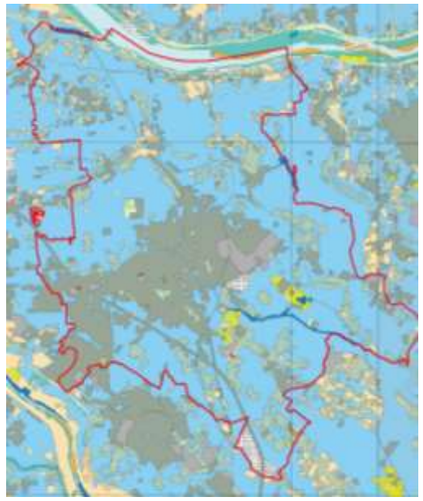
・旧忍川など河川周辺ではヨシクラス（**低層湿原、池沼の植生**）がみられ、利根川周辺では**オギ群集**が確認できる。

・星川では、県内希少野生動植物種に指定されている**「キタミソウ」の自生地**となっており、保全地の設定とともに、市民団体による保全活動が行われている。

・市内の約４割を占める水田は生物多様性の宝庫である。多種多様な動植物が確認されている一方で、外来生物の増加や除草剤の多用などによる生態系への影響が懸念されている。

キタミソウ
出典：R4 行田市自然環境調査報告書





植生図（国土地理院）

#### 2）水の恵みにより発展した低地の自然・田園景観

**■水辺**

・市域北端を**利根川**、南端を**荒川**、その他**中小河川や用排水路**がおおよそ市域北西から南東にむかって流下しており、**生業と流通の要所として機能**してきた。これらの水辺は**複数の地域を結ぶ景観軸**となっている。

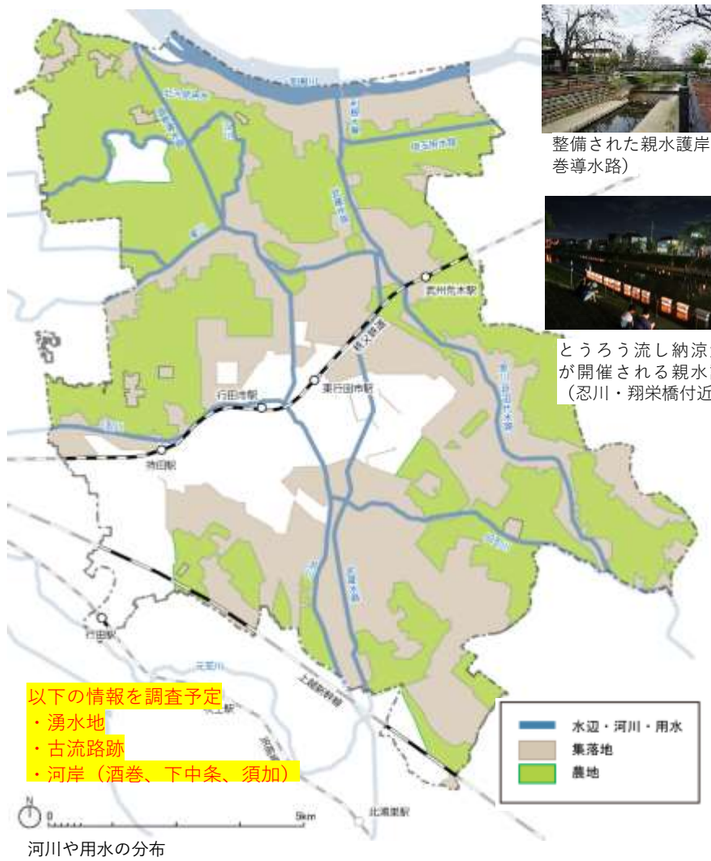
・荒川扇状地の扇端部外縁に位置する妻沼低地（**市域西側）は、伏流水と湧水点が多く存在**しており、市域全体においても古流路跡がいくつかみられる。

・水に恵まれた水郷であるが、利水や治水の問題が生じやすく、幾度の土地改良、耕地整理、治水工事等がなされ、**水とのたたかいの歴史**が市域を縫う用排水路や堰・門樋等の遺構、水塚として今なお残っている。

・近年では、河川用水の河道周辺が**散策路、サイクリングロードや親水護岸として整備**され、市街地に隣接した**イベントや憩いの場、自然に触れ合える場**となっている。

整備された親水護岸（酒巻導水路）

とうろう流し納涼大会が開催される親水護岸（忍川・翔栄橋付近）



河川や用水の分布

**■農地・農村集落**

・古くは弥生時代から水田稲作を中心とした農耕生活が営まれてきた本市は、日照に恵まれ**二毛作に適した環境**であり、米と麦（小麦、大麦）の作付けにより１年を通して彩りの豊かな**農地が特徴的な景観**となっている。

・全般的に起伏の少ない平坦な地形の市域においては市域を貫入する中小河川沿岸の**自然堤防（微高地）に屋敷を構える**場合が多かった。防風林を設ける屋敷も多く、今でも**屋敷林のある集落景観**が形成されている。

・**集落に点在する寺社・堂祠**は生活生産に直接結びついた人生儀礼や祭礼を行う場であった。たびたび洪水に見舞われた地形から、洪水時に神仏や神輿、獅子頭が流れ着いたという「漂着神」の伝承もある。こうした**寺社や祠は集落の特徴的な景観**となっている

米と麦の二毛作により１年を通して彩りの変化がある田園風景

斎条の神明社
出典：行田市史 行田の民族

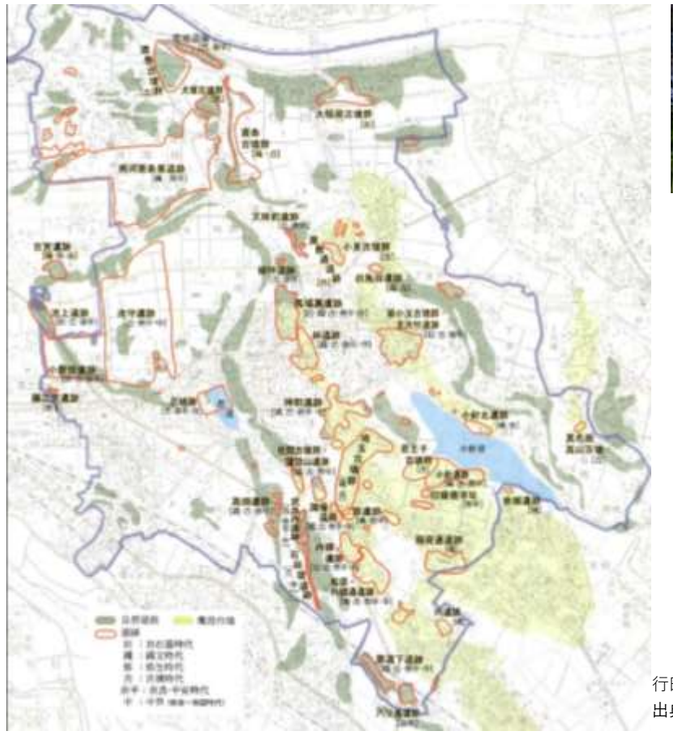
屋敷林の残る集落（荒木地区）

## （２）歴史・文化景観

### １）原始・古代の遺跡

・豊富な水利と日照に恵まれ旧石器時代から人々が生活していた痕跡がみられる。弥生時代には**集落を形成し定住していたことを示す遺跡**（池上・小敷田遺跡）が残っている。

・古墳時代には**大型の古墳群が築造**され、今もなお**本市のランドマークとして親しまれている**。埼玉古墳群周辺は公園として整備され、**市民の憩いの場**となっている。



行田市域の地形および主な遺跡分布図
出典：行田市史普及版 行田の歴史

全国でも珍しい登れる古墳として親しまれている丸墓山古墳

### ２）忍城の築城（中世）

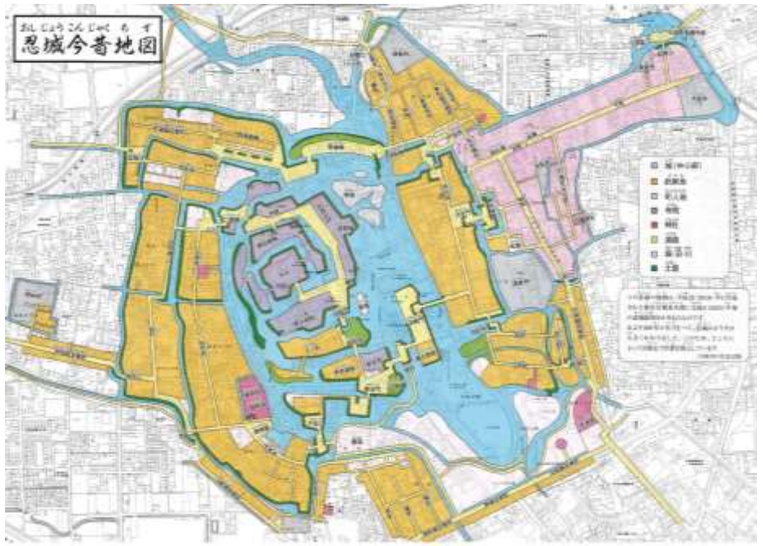
・室町時代中期に**成田氏により忍城が築城**された。周囲を沼沢に囲まれた低湿地を巧みにいかした城郭は石田三成を総大将とする豊臣軍による忍城水攻めにも耐えた「浮き城」として知られている。

・忍城は廃藩置県により明治 6 年（1873）に**廃城となり、土塁の一部が残るのみであったが、城址には忍公園が設置**され、桜をはじめ様々な樹木が植えられ**地域の人々の憩いの場**となった。昭和 63 年には**「忍城御三階櫓」再建され、本市の歴史的なシンボル**となっている。

### ３）城下町の発達（近世）

・北條氏の降伏後に開城した忍城は、江戸時代には阿部家や松平家などが城主を務め、忍藩十万石の拠点となった。江戸時代には近世城郭として**忍城・城下町の整備が進められていく中で町場が形成**されていった。**間口が狭く奥行きが長い短冊型の敷地が通り沿いに並ぶ町割り**（上町・下町・新町・八幡町など）が随所に残り、水城公園は外堀の情景を彷彿とさせる。

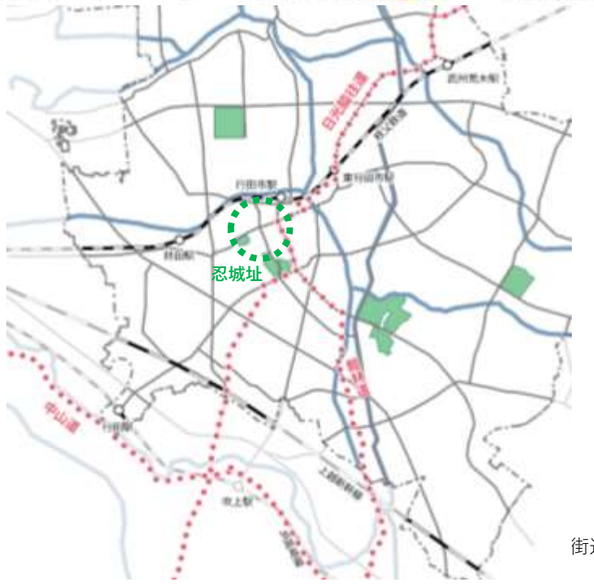
・忍城下は、**中山道から分岐した舘林道、日光道中脇往還**となっており、公用通行者の宿泊・休憩や人馬の継送など**宿場町としての役割**も果たしていた。



忍城御三階櫓

七五三など、ハレの舞台としても市民に親しまれている忍城址

忍城今昔地図（行田市郷土博物館）




街道・往還位置図

### 4）足袋蔵の街並み（近世後期～近現代）

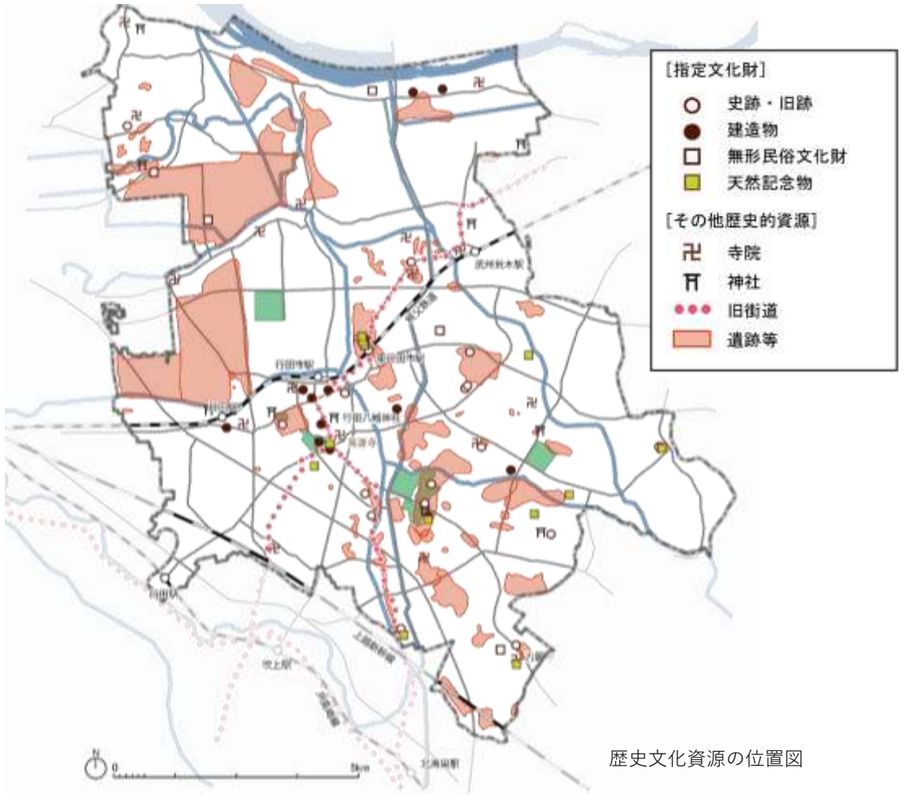
・旧北埼玉郡一体で綿花や藍が盛んに栽培されており、これらを原料とした綿織物が生産されていた。江戸時代末期頃からこれらを原料とした足袋製作が農家の内職として行われるようになり、明治時代には日常生活による足袋の使用が普及し、旧忍町を中心地として産業化していった。

・近代に足袋は大衆化して需要が拡大し、城下町特有の短冊状の敷地の裏庭に工場や足袋蔵が建てられていった。こうして防火・防寒対策を施した店舗・住宅、接客用の中庭、工場、足袋蔵、火除けを願う屋敷稲荷が表から列状に並ぶ、足袋商店特有の建物配置が形作られた。建築時代によってさまざまな建築技術が取り入れられ、土蔵や石蔵、RC 造、木造まで多種多様な足袋蔵が建築された。

・現在も多くの足袋蔵が現存し、再活用をされながらも時折流れるミシンの音と共に、裏通りに趣きのある足袋蔵のまち並みを形成している。

足袋蔵

足袋工場（イサミ本社工場）



歴史文化資源の位置図

## （3）まち並み・暮らしの景観

### 1）行田市の成り立ち（略歴）

・旧石器時代から人々の生活が営まれたとされ、古墳時代には大型の古墳群が築造された。
・成田氏により忍城が築城され、難攻不落の浮き城として城下を築いた。
・廃藩後は足袋産業や鉄道開通に町の発展を支えられ、明治から昭和、平成の市町村合併により市域を徐々に拡大し、熊谷市とともに埼玉県北部に位置する有数の中核都市となった。

表　行田市の略歴

| 時代 | 主な出来事 |
|---|---|
| 原始<br>古代 | ・旧石器時代から人々の生活の痕跡がみられる。弥生時代には水田稲作を中心とした農耕生活が営まれ、集落を形成して定住していた。<br>・古墳時代に大型古墳群が築造された。 |
| 中世 | ・文明年間に忍城が築造され、成田氏が拠点を構える。<br>・天正 18 年（1590）豊臣秀吉による関東侵攻に際し忍城をめぐる攻防戦が勃発。石田三成による水攻めに耐えたものの孤立無援の戦いの末、開城。 |
| 近世 | ・阿部家、松平家による統治と近世城郭としての城・城下町の整備。<br>・舘林道、日光道中脇往還が城下を経由し、宿場町としての役割を持つ。 |
| 近現代 | ・廃藩置県による忍藩の解体と忍県の誕生（間もなく岩槻県、浦和県と統廃合され埼玉県となる。）、忍城は廃城し忍公園となる。忍城址周辺は成田町、町人地は行田町と称された。<br>・近代化以降、足袋産業の発達により足袋工場や足袋蔵の街並みが形成される。<br>・明治 22 年（1889）に市町村制が施行され、成田町・行田町・農村部の佐間村を加えた 2 町 1 村が合併し、忍町が成立した。<br>・明治 16 年（1883）にのちの高崎線が開通、大正 10 年（1921）に現在の秩父鉄道が開通し町の発展に大きく寄与した。<br>・昭和 12 年に忍町は長野・星河・持田の三村を編入し、同 24 年に行田市が誕生した。その後、何回かにわたり周辺の村々を合併したのち、平成 18 年（2006）に南河原村を編入し現在の市域が確定した。 |

### 2）都市計画の概要

**■区域区分・用途地域等**

・本市は全域が都市計画区域であり、市街化区域は行田市駅周辺、南河原支所周辺、行田みなみ産業団地の 3 ヵ所に分かれている。市街化区域・市街化調整区域の面積と比率は下表のとおりである。市街化調整区域が 8 割を占め、市街化区域においては住居系の用途地域が多く指定されており、中でも第一種住居地域が 4 割程度と最も多くを占めている。
・地区計画は 3 地区で決定されており、いずれも工業団地等の立地にあたり事業環境と住環境の調和を目的に指定されたものである。

表　区域区分

| 区域 | 面積 ha | 市域面積比率 |
|---|---|---|
| 市街化区域 | 1167.8 | 17.3% |
| 市街化調整区域 | 5581.2 | 82.7% |
| 総計 | 6749 | 100.0% |

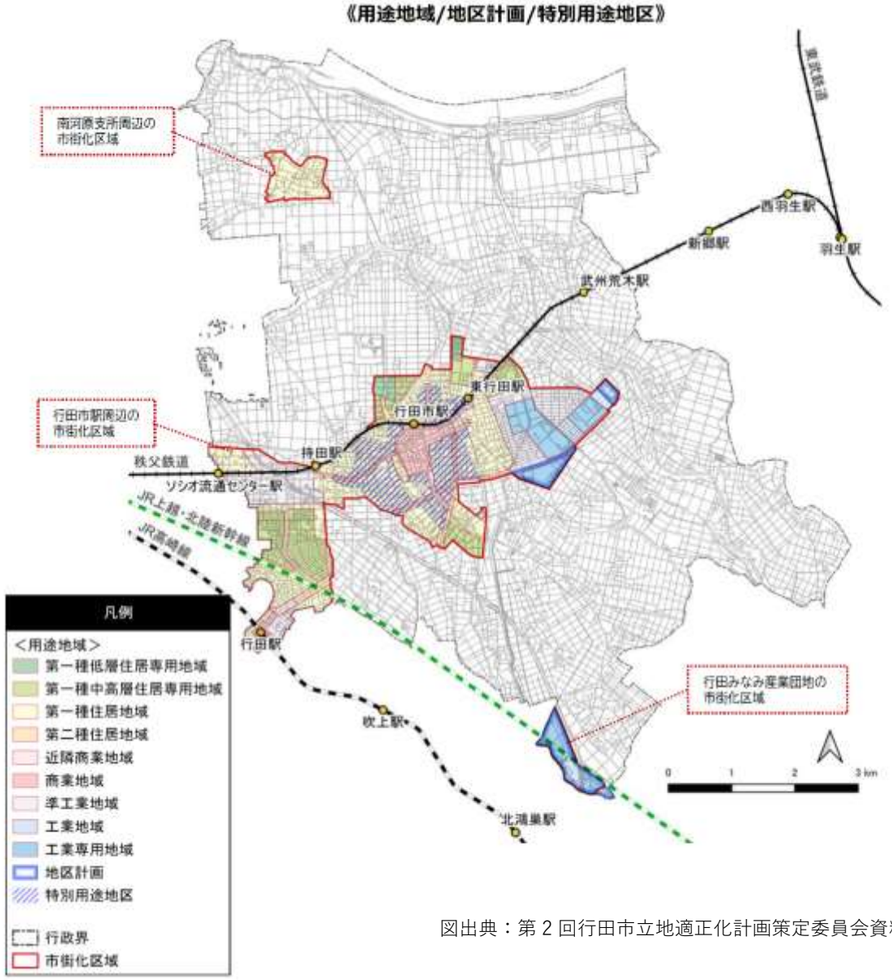
表　用途地域

| 用途地域 | | 指定面積 ha | 市街化区域面積比率 |
|---|---|---|---|
| 住居系 | 第一種低層住居専用地域 | 17.1 | 1.5% |
| | 第一種中高層住居専用地域 | 159.7 | 13.7% |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 第一種住居地域 | 515.5 | 44.2% |
| | 第二種住居地域 | 47.0 | 4.0% |
| 商業系 | 近隣商業地域 | 23.5 | 2.0% |
| | 商業地域 | 51.3 | 4.4% |
| 工業家 | 準工業地域 | 194.0 | 16.6% |
| | 工業地域 | 33.1 | 2.8% |
| | 工業専用地域 | 125.6 | 10.8% |

表　地区計画の決定

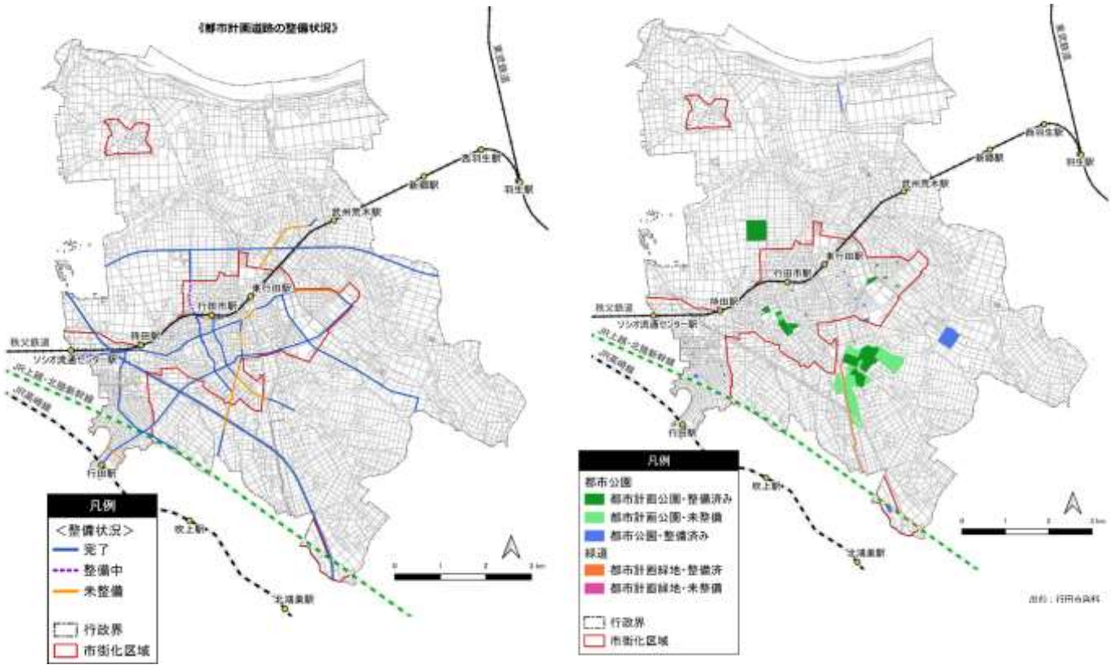
| 都市計画決定年月日 | 地区 | 種別 |
|---|---|---|
| 平成 6 年 11 月 25 日決定 | 長野地区地区計画の決定 | 工業系 |
| 平成 16 年 4 月 27 日決定 | 行田みなみ産業団地地区計画の決定 | 工業系 |
| 令和元年 11 月 8 日決定 | 若小玉地区地区計画の決定 | 工業系 |




図出典：第 2 回行田市立地適正化計画策定委員会資料

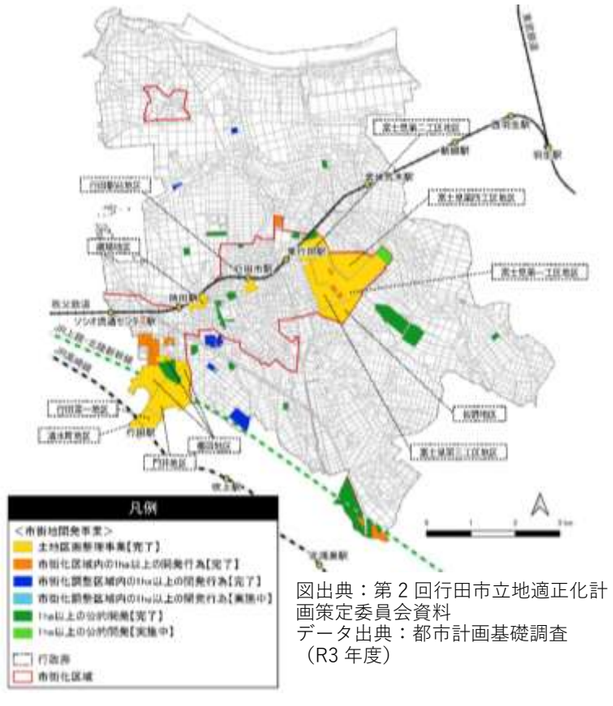
## ■都市基盤整備等

・市街化区域を中心に都市計画道路が決定されており、概ね計画の幅員通りに整備が完了している。
・市内に都市公園は５９ヵ所あり、市街化区域外に大規模な総合公園や広域公園が立地し、河川沿川に緑道も整備されている。




図出典：第 2 回行田市立地適正化計画策定委員会資料

・市内では行田市駅、持田駅、行田駅等駅周辺、工業団地等で区画整理事業が施行されている。




図出典：第 2 回行田市立地適正化計画策定委員会資料
データ出典：都市計画基礎調査（R3 年度）

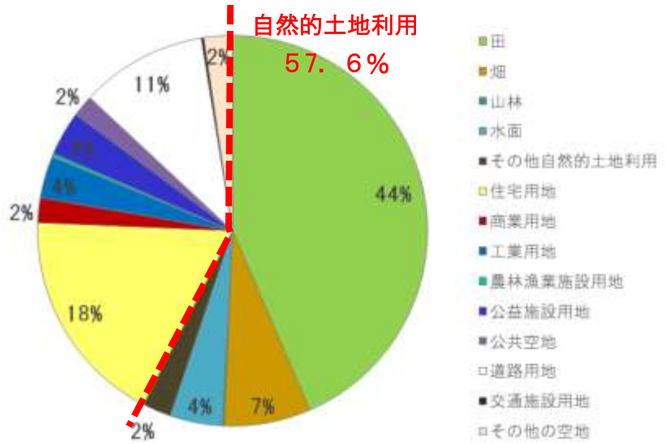
### 3）土地利用の現況

・本市の土地利用は自然的土地利用が全体の半分以上を占めており、中でも「田」が 44%と多くを占めている。都市的土地利用においては住宅用地が 18%と最も多くを占めており、農地（田畑）と住宅が大半を占める土地利用構成となっている。

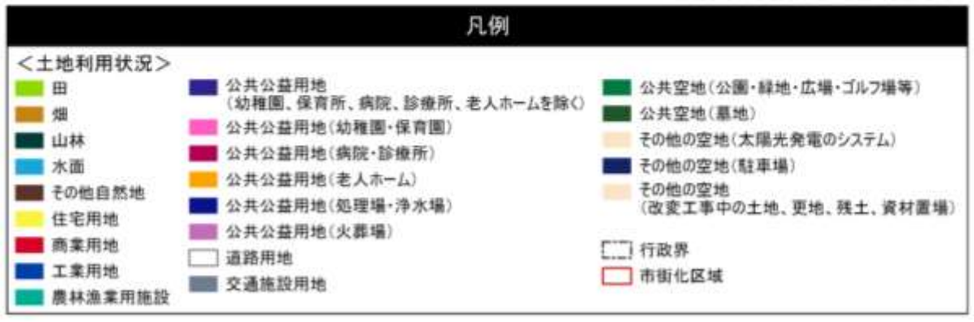
表　土地利用割合

| 項目 | 田 | 畑 | 山林 | 水面 | その他 | 自然的土地利用合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 面積 ha | 2936 | 483.7 | 12.44 | 292.5 | 159.9 | 3884.35 |

| 地目 | 住宅用地 | 商業用地 | 工業用地 | 農林漁業施設用地 | 公益施設用地 | 公共空地 | 道路用地 | 交通施設用地 | その他の空地 | 都市的土地利用合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 面積 ha | 1222 | 138.6 | 233.7 | 20.09 | 248.2 | 120.2 | 708.3 | 15.01 | 158.4 | 2864.65 |



図出典：第 2 回行田市立地適正化計画策定委員会資料　データ出典：都市計画基礎調査（R３年度）



## （4）人の営み

### 1）季節の風物

**■花がつくる景観**

・毎月、忍城址や行田八幡神社とその周辺で開催される「花手水」をはじめ、7 月に古代蓮の里で開催される「行田蓮まつり」、10 月から 11 月に忍城址で開催される「行田市菊花展」など、四季折々の花がつくる潤いのある景観を市内の各所で見ることが出来る。

花手水

市の花に指定されている蓮

行田市菊花展

**■祭礼・行事がつくる景観**

・埼玉県や行田市の無形民俗文化財に指定され、市内 6 地区で伝承される「獅子舞」や、7 月に開催され、市内を神輿や山車が巡行する「行田浮き城祭り」など、地域固有の歴史や文化を物語る祭礼を見ることが出来る。

・5 月にさきたま古墳公園で開催される「さきたま火祭り」や 8 月に忍川で開催される「とうろう流し納涼大会」、12 月に愛宕神社周辺で開催される「酉の市」など、祭りで賑わう光景や人々の様子はその時期にしか見ることのできない固有の景観を生み出している。

行田浮き城祭り

長野地区のささら獅子舞

とうろう流し納涼大会

### 2）人の活動

・地元住民や民間企業、NPO などにより、道路や公園、河川の美化活動が盛んに行われており、清潔感や彩り豊かな公共空間が保たれている。（花いっぱい運動、河川の清掃）

・足袋蔵等の歴史・文化的な建物の保全・活用の支援が地元の団体により積極的に行われており、趣きのある景観が保たれている。（行田足袋蔵ネットワーク）

・樹木や鉢植え、草花などをしつらえ、通りに面したスペースや敷地内の空いたスペースを豊かに演出している住宅や商店が見られる。

五持田ふれあいガーデン
（花いっぱい運動）

埼玉県ロードサポーターにより
維持管理がされている花壇

通りの緑が豊かな商店街

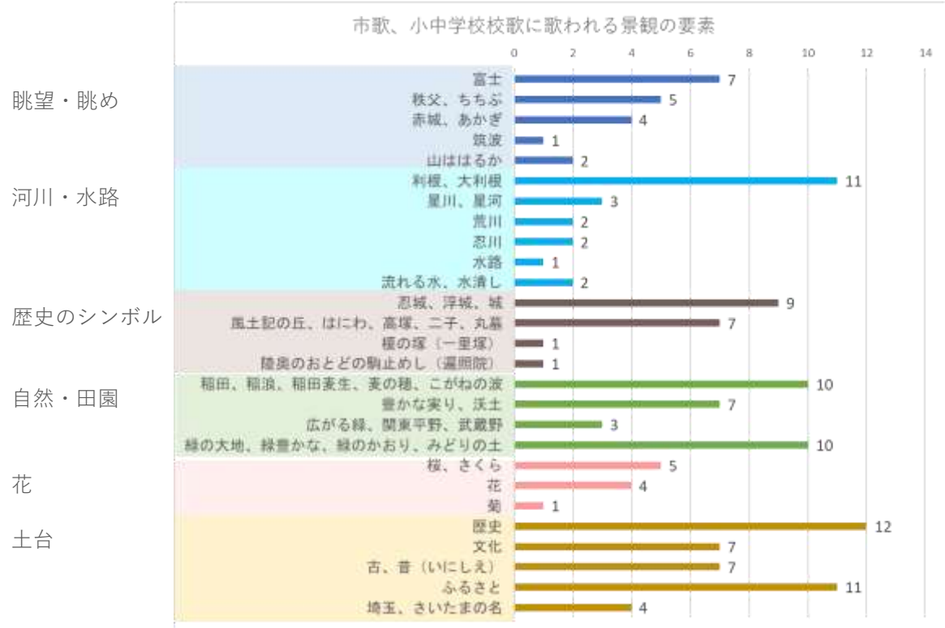
## 3．心象的景観

### （1）市歌・校歌に歌われる景観

・校歌はその地域の風景や物事を歌い込んでいるものが多く、歌詞に登場する風景は、地域の多くの人々に共有される、その地域らしい景観像を反映している。

・市内の小中学校の校歌および行田市歌（1970 年制定）を対象に、風景や物事がどの程度歌詞に含まれているかを整理したところ、大きくは、**「眺望・眺め」、「歴史のシンボル」、「河川・水路」、「自然・田園」、「花」**などが見られた。特に多い**“富士山への眺望”、“利根川”、“忍城”、“稲や麦の実る田園”、“緑豊かな地”などは、全市的なシンボルやベースとなる景観**として親しまれていると考えられる。

・地域別に整理すると、**暮らしに近い身近な川や歴史のシンボル、花など**が歌われており、小中学校等の位置する周辺の地域の景観と深く関連している。



## （2）ぎょうだ郷土かるたに描かれる景観

・地域の代表的な自然、歴史、産業、文化などを詠んだ郷土かるたは、身近な地域への認識や愛着を深めるツールのひとつです。

・「ぎょうだ郷土かるた」は、平成 30 年 3 月にリニューアルし、新たに足袋蔵、忍城址、田んぼアート、武蔵あばれ太鼓、南河原小学校のすずかけの木、行田グルメ（フライ・ゼリーフライ）、埴輪をテーマにした絵札が追加され、小学校や子ども会の行事などで親しまれています。

・**「行田市市民憲章」（5）、「歴史・文化」（20）、「祭礼・行事」（7）、「自然・田園」や「花・樹木」**などが詠まれており、**特に古墳や忍城、社寺などの「歴史・文化」が多く**みられます。

表　ぎょうだ郷土かるたに詠まれる景観

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【あ】新しい 産業おこした 工業団地 | まち並み・暮らし | 【は】晴れた空 菊は市の花 薫る秋 | 花・樹木 |
| 【い】家康の 画像が残る 東照宮 | 歴史・文化 | 【ひ】百八つ 忍城跡の 鐘響く | 歴史・文化 |
| 【う】うす紅の 色あざやかに 古代はす | 花・樹木 | 【ふ】福川を 合せて利根川 ゆったりと | 自然・田園 |
| 【え】円墳で 日本一の 丸墓山 | 歴史・文化 | 【へ】平安の 礎石が残る 盛徳寺 | 歴史・文化 |
| 【お】思いやりの心で 住みよいまちを つくります | 行田市市民憲章 | 【ほ】ほかほかの フライ・ゼリーフライは 町おこし | まち並み・暮らし |
| 【か】関東一 八幡山の 石舞台 | 歴史・文化 | 【ま】万葉の うたによまれた 小埼沼 | 歴史・文化 |
| 【き】きまりを守り 明るいまちを つくります | 行田市市民憲章 | 【み】三成の 水攻めのあと 石田堤 | 歴史・文化 |
| 【く】蔵めぐり 和装文化の 行田足袋 | 歴史・文化 | 【む】昔から 踊り継がれた ささらの獅子舞 | 祭礼・行事 |
| 【け】県名の 由来はここに 風土記の丘 | 歴史・文化 | 【め】名調子 行田音頭で ヤッチョマカセ | 祭礼・行事 |
| 【こ】駒形の 目の薬師様 遍照院 | 歴史・文化 | 【も】木造の 三重の塔 成就院 | 歴史・文化 |
| 【さ】山門で 仁王が守る 真観寺 | 歴史・文化 | 【や】弥惣兵衛が つくった 見沼代用水 | 自然・田園 |
| 【し】仕事に誇りをもち 豊かなまちを つくります | 行田市市民憲章 | 【ゆ】豊かなる 水を生かす 利根大堰 | 自然・田園 |
| 【す】素晴らしい 力の結集 田んぼアート | 祭礼・行事 | 【よ】よみがえり はにわが語る 古代ロマン | 歴史・文化 |
| 【せ】戦国の 歴史を刻む 浮き城「忍城」 | 歴史・文化 | 【ら】らんまんの 桜が映る 武蔵水路 | 自然・田園 |
| 【そ】「ソーレ」の かけ声高く だんべ踊り | 祭礼・行事 | 【り】立像の 聖徳太子 天洲寺 | 歴史・文化 |
| 【た】旅人の 歩く目じるし 一里塚 | 歴史・文化 | 【る】ルリ色の 空にそびえる いちょうは市の木 | 花・樹木 |
| 【ち】長久寺 城主が開いた 祈りの地 | 歴史・文化 | 【れ】歴史の町 行田を学ぶ 郷土博物館 | まち並み・暮らし |
| 【つ】強く打て あばれ太鼓は 歴史知る | 祭礼・行事 | 【ろ】老人も 子どもも集まる コミュニティセンター | まち並み・暮らし |
| 【て】鉄剣が 古代を語る 稲荷山 | 歴史・文化 | 【わ】我が行田 昭和24年に 市制しく | 歴史・文化 |
| 【と】飛び跳ねる 子らを見守る すずかけの木 | 花・樹木 | 【を】郷土を愛し 文化のまちを つくります | 行田市市民憲章 |
| 【な】夏近し 久伊豆神社の 下がり藤 | 歴史・文化 | 【ん】自然を生かし 美しいまちを つくります | 行田市市民憲章 |
| 【に】日本一 足袋の行田の 名は高し | 歴史・文化 | | |
| 【ぬ】沼が今 近代設備の 浄水場 | まち並み・暮らし | | |
| 【ね】念仏の 鐘に合せて 片原の手踊り | 祭礼・行事 | | |
| 【の】のんびりと 市民が遊ぶ 水城公園 | まち並み・暮らし | | |

平成 30 年度より、行田市青少年育成連絡協議会主催による「ぎょうだ郷土かるた大会」を開催
まちづくり出前講座では、ルール説明や必勝ポイントの説明も行っている

## （3）創作の舞台となる景観

### 1）万葉集に詠まれた行田

・万葉集には、行田市内のある場所を題材にしたと考えられる「小埼沼」と「埼玉の津」の歌が残されており、「前玉」、「埼玉」など**現在の埼玉県名の由来になった地名**がみられる。

・小埼沼は、現在では小さな林となっており、沼と呼べるほども水たまりも残っていないが、上代の東京湾の入江の名残りともいわれ、「埼玉の津」万葉集の遺跡とされている。

前玉の小崎の沼に鴨ぞ翼きるおのが尾にふり置ける霜を掃ふとにあらし

「埼玉の小崎沼に来たが、鴨がいっしょうけんめい羽ばたいている。尾羽根に降り積もっていた霜をはらい落としているらしい」

埼玉の津に居る舟の風をいたみ網は絶ゆとも言な絶えそね

「『埼玉の津』の船着き場につながれている舟に激しい風が当たって、綱が切れて絶えてしまったとしても、あなたの言葉は絶やさないでくださいね」

現在の小埼沼（行田市埼玉字小埼）、埼玉県指定の旧跡となっている

前玉神社参道の階段の両側に一対の石灯籠があり、２つの万葉歌が刻まれている

### 2）行田の歴史・文化を現代に紡ぐ物語

・戦国時代、豊臣秀吉の関東平定において水攻めに耐え抜いた「忍城」と城を守り抜いた城代、成田長親と家臣団は、その歴史的背景から「のぼうの城」（和田竜氏の小説を映画化）など数多くの創作の舞台となってきた。また、2010 年から活動を続ける「忍城おもてなし甲冑隊」は、戦国時代に秀吉軍と対峙した成田家の勇猛果敢な武将達をモデルとしており、市内、県内外で行田市の歴史を PR している。

・江戸時代から奨励されてきた足袋産業は明治時代になるとミシンの普及により爆発的に生産力が向上。昭和の最盛期には日本の足袋の 80%を行田で生産していたとされ、最近では、行田市の足袋工場がモデルとなった書籍・ドラマ「陸王」で話題になり、ロケ地を巡るスポットにはサインが設置されている。

石田三成率いる豊臣秀吉軍が行った水攻めを耐え抜いたエピソードは数々の物語、創作の題材となっている

ロケ地めぐりの案内サインと、劇中に登場する足袋工場のモデルとなったイサミコーポレーションスクール工場